

Vol.193

2026.1

■発行責任所■
別府市自衛隊協力会

■印刷■
(株)電子印刷センター

地域とともに、生きる・守る

扇山

OHGIYAMA

別府駐屯地広報誌

新年明けましておめでとうございます！
駆け抜ける馬のように午年が皆様におかれまして活気ある年になりますようにお祈り申し上げます。
別府駐屯地の活力溢れる情報をホームページやXでも情報発信していますので、ぜひご覧ください！！



謹賀新年

べっふのまちを照らす光、未来を照らす

7面

女性が輝く職場づくり

別府駐屯地では、女性自衛官が安心して力が発揮できるよう、働きやすさと支えあいのある職場づくりを進めています。一人ひとりが自分らしく、笑顔で輝ける職場をめざして、日々前進中です。



4面

別府駐屯地 創立68周年記念行事

日頃よりご支援をいただく地域の方々や、隊員家族への感謝を胸に創立記念行事を挙行いたしました。地域とともに歩む別府駐屯地の節目を祝う、明るく暖かな一日となりました。



2・3面

年頭挨拶・抱負

新たな年の始まりにあたり、別府駐屯地司令と別府市自衛隊協力会会長の年頭挨拶を掲載します。併せて年男・年女、そして二十歳を迎えた隊員の新年の抱負を紹介します。それぞれの言葉に新しい一年への決意と希望が込められています。



←-----NEXT PAGE

様々な記事をご用意しています！！



新年の挨拶

別府市自衛隊協力会会長

別府市長 長野 恭紘



明けましておめでとうございます。陸上自衛隊別府駐屯地第41普通科連隊をはじめ各部隊の隊員並びにご家族の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

平素より、別府市政及び別府市自衛隊協力会の活動に多大なるご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年は、国際情勢の緊迫化や自然災



新年の挨拶

第四十一普通科連隊長 兼 別府駐屯地司令

一等陸佐 井出 智昭



新年明けましておめでとうございます。関係協力諸団体の皆様、地域の皆様、隊員ご家族の皆様、そして隊員諸官におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中も滞りなく駐屯地隊務を運営できたのは、駐屯地隊員諸官の奮励ももちろんのこと、これを支えていただいた皆様のお力添えの賜物と感謝申し上げます。このたび令和7年11月18日に発生した大分市佐賀関大規模火災で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

別府駐屯地は、昨年創立68周年を迎え、盛大に創立記念行事を開催することができました。また、創立記念行事の前日には、「家族・募集広報の日」を開催し、大勢の参加を頂き、日頃から隊員を支えるご家族に感謝申し上げます。この機会に、より良く自衛隊を知ってもら



互理解や絆を深めていただいております。不安定な世情にあっても、日本と世界の平和を守り、万一の災害時には国民に平和と安心を与えてくれる自衛隊員の皆様、凛々しい姿は、私たち別府市民にとって大変頼もしく、心強い存在です。

本年も、別府市政及び市民生活への変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、別府駐屯地及び各所在部隊のますますのご発展と、新しい年が、井出智昭別府駐屯地第41普通科連隊長兼別府駐屯地司令をはじめ、隊員並びにご家族の皆様にとりまして、幸多く美りのある年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

日々、厳しい訓練を行っています。また、近年、気象災害が激甚化・頻発化の傾向にあることにも、林野火災等の災害にも備えることが必要です。大分市佐賀関大規模火災に伴い発生した林野火災においては、部隊を派遣することにも航空機による空中消火を行いました。引き続き、いかなる災害においても対応するため、即応態勢を維持してまいります。

我々が任務を遂行するためには、隊員ご家族の理解、地域の皆様及び関係協力諸団体の皆様のご支援ご協力が何よりも不可欠です。別府駐屯地は、災害派遣、別府八湯温泉まつりや別府大分毎日マラソンなどの各種行事支援を通じて、地域の皆様からの信頼を積み上げてきました。

来年は、駐屯地が扇山に移駐し49年が経過し、開設70周年を迎えることにも別府駐屯地の主力部隊でもある第41普通科連隊が総隊65周年の節目を迎えます。これからも、別府駐屯地は、別府の地に根付き、「地域とともに」をモットーに、地域の皆様から、さらに信頼され、さらに愛される駐屯地となるよう精進して参ります。

末筆となりましたが、本年も皆様のご家族共々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。

別府駐屯地業務隊業務隊長

二等陸佐 柳澤 和之



新年明けましておめでとうございます。隊員及びご家族並びに協力諸団体の皆様におかれましては希望に満ちた新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

本年も業務隊は、駐屯部隊の活動や隊員の生活を一生懸命支えてまいります。また、地域の方々のご期待に応えられるよう、隊員とともに前進してまいりますので、引き続き、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本年が皆様にとって良い年となりますようお祈り申し上げます。



第四十一普通科連隊副連隊長

二等陸佐 佐藤 成浩



新年あけましておめでとうございます。協力諸団体の皆様、そして本誌「扇山」ご愛読の皆様におかれましては、輝かしい新春を迎えられたこと心からお慶び申し上げます。

さて、国際情勢が年々厳しさを増し、自然災害も突発的に発生する中、本年は「防衛力整備計画」の4年目にあたる年であり、部隊も所要の維持・強化を図る重要な時期となります。

このため、日頃の訓練を含め、引き続き即応態勢の維持及び隊員個々の充実に努め、皆様からの負託に応え得るよう精進していく所存ですので、本年もどうぞよろしくお願いたします。



別府駐屯地最前任上級曹長

准陸尉 戸高 弘幸



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望と期待に満ちた新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は連隊の目標であった戦闘団訓練検閲を受閲、大変輝かしい成果を収める事が出来ました。これも皆様方の一人一人のやる気と任務を完遂するという強い責任感、そして普段からの訓練を着実に実施してきたからだと思っております。

今年も基本基礎をあたりまえに実施し、足腰の強い連隊、地域との連携を密に信頼ある駐屯地を目指して更なる発展に頑張っていきたいと思います。本年も皆様にとって幸多き年となりますよう心から祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



新年の

午年 年男 年女 新年の抱負

別府駐屯地業務隊 二等陸曹 川浪 純之



新年を迎えて、今回で4回目の年男となりました。気付けば知らぬ間にアラフィフになっておりました。「おっさんは落ち着いてるのではなく、元気がないだけだ」と耳にすることがあります。この言葉に負けないように、今年は元気を出一燈照臨の精神で良い一年にしたいと思います。皆様も良い年でありますように心からお祈りいたします。

本部管理中隊 二等陸曹 大段 比呂



新年明けましておめでとうございます。今年も午の年。勢いよく駆け出したし気持ちは山々ですが、36歳ともなると、立ち止まって草を食む余裕もありません。無理に走らずマイペースで一步步頑張つてまいります。家庭もウマハレくう、ごっしりとした夫、優しいパパでありたいです。

第一中隊 二等陸曹 椎木 寛



新年明けましておめでとうございます。今年で4度目の年男を迎えることが出来ました。おそろしく自衛隊での最後の年男となります。今年で48歳となり、日に日に体力・気力ともに少しずつ衰えを感じています。しかしながら、ここまで元気で健康にやっていたのも家族や恩師、多くの人の支えがあったかと思えます。その方々の感謝の気持ちを忘れず2026年も馬の様に全力で走り続け日々精進して行こうと思えます。今年も皆様にとって幸多き年となりますように心から祈念申し上げます。

第二中隊 二等陸曹 安邊 優



新年、あけましておめでとうございます。今年も年男として、馬のよつに落ちついた歩調で一歩ずつ前進する一年にしたいと思えます。周囲への感謝を忘れず、日々の務めを丁寧に果たしながら、自分なりの目標に向けて着実に力を重ねていきたいと思います。無理に駆け抜けるのではなく、節度を保ちながらも挑戦する気持ちは大切に、穏やかで実りある一年を過ごしたいと思います。

第三中隊 三等陸曹 富成 周平



新年明けましておめでとうございます。24歳の年男として迎える本年は、若さと活力を前面に出し、勢いよく駆け抜ける一年にしたいと考えています。干支の午のように力強く前進し続けることを意識し、与えられた任務や環境に全力で向き合っていきます。また自らの成長を恐れず、挑戦の歩みを止めないことで、周囲から信頼される存在を目指します。今年一年、跳ねるような行動と情熱で、新たな自分を築いていきます。

第四中隊 中隊長 三等陸佐 長谷川晋輔



謹んで新春のお慶びを申し上げます。私は昨年3月に41普通連4中隊長として着任以来、隊員へは「正義を為せ」を要望し、強さと健全性を兼ね備えた中隊の育成を目標に職務に臨んで参りました。今年も引き続き中隊の仲間とともに、公私を問わず各地位・役割に応ずる「正しさ」を追求するとともに、他者への「尊重」を大切にした毎日を過ごしていきたいと思えます。「魁中隊」前へ!!!

重迫撃砲中隊 一等陸曹 清元 倫昌



新年あけましておめでとうございます。今年で4回目の年男を迎えることになりました。平成9年入隊以来、本日まで来たのも、職場の皆様、そして家族の支えがあったからこそ感じています。今年一年については、健康に気を付け、さらなる飛躍を目指し、駆け抜けていきたいと思えます。結びになりますが、皆様にとっても今年一年が幸多い年となります事を祈念いたします。

第四〇四会計隊 三等陸曹 小野 苑佳



明けましておめでとうございます。気がつけば、今年で3度目の年女を迎えることになりました。昨年10月より、新しい係(旅費給与係)に上番し、少しずつ経験を積んでまいりました。今年も経験を積み上げ、早く即戦力となるよう頑張ります。また入隊以来、職場の皆様、友人、両親の支えがあったからこそ、今日までやってこられました。今までの感謝の気持ちを忘れず、日々邁進します。今年もよろしくお願ひします。

本部管理中隊 陸士長 谷口 友英



私の二十歳の抱負は、去年の自分を超えることです。今年は色々なことに挑戦して、成長を積み重ね、少しずつでも確かな努力を続けていきたいと思えます。また、今年からは後輩も配属され、先輩という立場になりました。これまで先輩方からご指導いただいたことや、学んだことを活かし、しっかりと自覚と責任を持って後輩指導に励みます。自分自身は挑戦し続け、後輩指導する上で自分を律することで、去年の自分を超える意識を持ち、行動していきます。

第一中隊 陸士長 藤原 優真



新年あけましておめでとうございます。私の二十歳の抱負は、「挑戦」することです。失敗を恐れず自分の可能性を広げる一年にしたいです。周囲への感謝を忘れず、人として成長できる選択を積み重ね、新しい経験に積極的に飛び込み、少しでも部隊に貢献できるように頑張りたいと思えます。

第二中隊 陸士長 若下 偉津



私の二十歳の抱負は、若い隊員ならではのエネルギーと元気で中隊及び小隊をもっと盛り上げていきたいと思っています。また、自衛隊に入隊してから2年が経ち、最初は分からなかった事が分かるようになっていき、少しずつではありますが慣れてきました。そこで今年には自分にはないスキル・知識を習得し、少しでも部隊に貢献と様々なことに挑戦する一年にしたいです。

第三中隊 陸士長 横尾 夏希



新年明けましておめでとうございます。この度、周りの皆様に支えていただき、無事に二十歳を迎えることができました。私の二十歳の抱負は2つあります。1つ目は後輩隊員が配属されたことを受け、寄り添った助言ができる、見本となる先輩隊員を目指すことです。2つ目は趣味のサッカーをより充実させることです。現在、社会人サッカーチームに所属しておりチームの目標であるリーグ優勝に向けて私自身も勝利に貢献できる存在になりたいと考えています。

第四中隊 陸士長 木戸 唯人



20歳を迎え、自分の言動にこれまで以上に責任を持ち、周りから安心して任せられる人になりたいです。中隊では先輩方の姿勢から学んだことを生かし、与えられた役割を理解して、責任を持って丁寧に取り組み、仲間へ寄り添える隊員を目指します。今年も日々の積み重ねを大切に、自分らしく成長していける一年にしたいです。

重迫撃砲中隊 陸士長 隈部 大輝

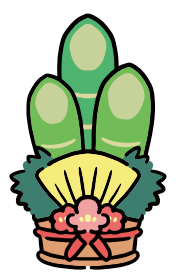


私の二十歳の抱負は「成長」です。今年から陸曹候補生の試験を受け始め、今までは指示を受ける立場からこれからは指示をする立場に変わっていくのだと試験を受けることで実感しました。また、後輩が出来たこともあり、自分の言動一つ一つを意識し、同期とともに成長していきたく思っています。そしてこれまで支えてくださった同僚や上司の方々そして家族に感謝をし、日々「成長」しながら陸曹を目指し頑張りたいです。

第三普通科直接支援中隊 三等陸曹 長谷部 零



私の二十歳の抱負は、多くのことを経験し、自分の可能性を広げていくことです。私は経験するということにはとても重要だと思っています。チャレンジしてみなければわからないことが多くあると思います。したがって自分が苦手だと思っていることも、これからは、より積極的に取り組んでいき、様々な目標で物事を考えられるような人になりたいです。



別府駐屯地創立68周年記念行事



別府駐屯地は、10月12日(日)に、別府駐屯地創立68周年記念行事を開催しました。

観閲式では隊員が整然と並ぶ中、多くの方々から祝辞や祝電をいただき、祝意一色の雰囲気になりました。その後に行われた訓練展示では、普通科職種の自衛隊員を主体とした力強い動きと緊密な連携が来場者の注目を集め、日頃の鍛錬の成果が示され、観客からは大きな拍手が送られました。

また子ども広場では、子ども用サイズの迷彩服を着用して行うロープ渡り体験や射的、綿菓子配布など、子どもたちが笑顔で過ごす、ふれあいの広場となりました。その他にも、装備品展示、自衛隊車両体験試乗、音楽部によるふれあいコンサート、売店・キッチンカーの出店もあり、約4,800人の来場者で賑わいました。別府駐屯地は、年に数回、駐屯地を一般開放しています。中でも多くの来場者で賑わうこの創立記念行事を、地域の皆さまと心温まる交流の場として大切にしていきたいと考えています。さらに、信頼され、愛される駐屯地になれるよう、日々精進してまいります。

家族・募集広報の日



創立記念行事の前日には、「家族・募集広報の日」を制定し、本番とおおむね同様の催しを隊員の家族や募集対象者に限定し、駐屯地開放を行いました。誇らしげに自衛隊の装備品などを説明している隊員の姿があり、そこには支えてくれている家族の笑顔がありました。

第3次師団演習 連隊検閲



別府駐屯地に所在する第41普通科連隊及び第3普通科直接支援中隊は、11月下旬、日出生台演習場において第3次師団訓練検閲を受閲しました。訓練検閲とは部隊の訓練練度を評価・判定し、今後の練度向上に繋げるものです。隊員らは、地形や天候、敵情など多様な要素を総合的に分析し、敵部隊はどの方向から接近し得るのかなど、慎重に地形偵察を行いました。さらに味方部隊の機動や火力支援部隊との連携を踏まえつつ、最も効果的な陣地を構築し、最善の態勢を整え、部隊としての防衛態勢を確立しました。戦闘間においては、強烈な寒風の中、迫りくる敵の侵攻を各級指揮官の判断及び部隊全体の組織力を発揮して、最後まで耐え抜き訓練は終了となりました。

本訓練を通じて、部隊は一致団結、任務を全うし、得られた成果に自信と達成感を得ることができました。隊員一人ひとりがプロフェSSIONナルを目指し、今後も練度の向上に努めてまいります。

訓練終了後は...?



訓練終了後は緊張から一転し、みんなで笑顔の記念撮影。達成感とお互いを称え合うことによって信頼感が生まれます。

各集合訓練隊の活躍

銃剣道訓練隊

銃剣道訓練隊は、日々の勤務と並行しながら限られた時間を最大限に生かし、効率的かつ質の高い練習を続けています。また隊員たちは様々な大会に参加し、実践の場を通して、自らの技量を客観的に確かめることも、次なる成長に向けた課題を見出し、厳しい環境下で積み重ねる鍛錬は、技術だけではなく心身の鍛錬にもつながります。銃剣道訓練隊は今後も文武両道を掲げ、精進を重ねながら、さらなる高みを目指して挑戦を続けていきます。



一戦一戦の積み重ねが技術と精神の成長につながり、次なる目標を見出すことが出来ました。

剣道訓練隊

剣道訓練隊は、令和7年12月13日(土)から14日(日)までの間、熊本県西原村で行われた、陸・海・空第41回全九州自衛隊剣道大会に参加しました。

団体の部はA、Bチームともにベスト8を達成することが出来ました。また今大会で、個人女子の部で中村愛梨3等陸曹が優勝し、3連覇を達成することが出来ました。

今後は、今回の大会を糧に剣道訓練隊一丸となって稽古に励み、2月に行われる全国自衛隊剣道大会の優勝を目指してまいります。



3連覇を達成した中村3曹。全力で戦い抜いた結果の栄冠であり、喜びと同時に大きな自信となりました。

自衛隊拳法訓練隊

拳法訓練隊は、令和7年11月22日(土)、23日(日)に熊本駐屯地で実施された第16回自衛隊西部地区拳法選手権大会において団体戦の部、優勝、個人戦の部において4名が上位入賞を果たしました。本大会で主将を務めた重迫撃砲中隊江口3曹は、「訓練多忙の中大会に参加させていただき、限られた練習期間だったが、練習に励み結果を出すことができ、うれしかったです」と述べていました。今後も慢心することなく、令和8年3月に実施される全自衛隊拳法選手権大会優勝を目指し、練習を続けてまいります。



チーム、個人ともに好成績を残すことができました。この勢いに乗って次の大会へ向け、練習を続けていきます。

音楽部

連隊音楽部は、昭和53年5月に発足し、現在14名で編成され、大分県下を中心に演奏活動を行っています。年間の主な活動は、駐屯地での式典、儀礼演奏をはじめ、別府大分毎日マラソン等、各市町村でのイベント演奏など内外合わせて年間約50回の演奏活動を行っています。これからは市民の皆様と自衛隊との架け橋となるよう日々練習に励んでまいります。また演奏の幅を広げるためには、人員の増加が必要不可欠です。新たな部員の確保にも力を入れてまいります。



別府を中心とし、様々なイベントに参加させていただいているのも、地域の皆様のご理解、ご協力があったことと深く認識しております。

持続走訓練隊

持続走訓練隊は、令和7年8月3日(日)に静岡県御殿場市で行われた第50回秩父宮記念富士登山駅伝大会に参加しました。残念ながら入賞とはなりませんでしたが、参加26チーム中、12位と過去最高成績を達成することができました。山岳区間を担当した西大地2等陸曹は「ランナーとして専念できる環境に感謝し、これからもさらに練習に励んでいきたい」と決意を述べました。

今後も持続走訓練隊は様々な大会を通じ、自己研鑽してまいります。



過酷なコンディションの富士登山駅伝。完走した喜びと達成感、この泥にまみれた笑顔が何よりの証拠です。

柔道訓練隊

柔道訓練隊は、現在、少人数での活動となっており、部員が揃う貴重な時間を最大限に活かして技術の向上を目標とし、短期集中的に寝技・立技の基礎から応用まで稽古を行っています。環境が整わない中でも、隊員一人ひとりが自己研鑽を怠らず、確かな力を積み重ねて、互いに切磋琢磨し、一丸となって頑張っています。今後の目標は、練習態勢の強化、各大会入賞はもちろんですが、新たな部員の確保にも力を注ぎ、訓練隊としての活動の幅を広げていきたいと考えています。



昨年は県民スポーツ大会にも参加をしました。試合を通じ一人ひとりが課題を見つけることが出来ました。

椎茸のチーズフライカレー

Vol.11

別府駐屯地隊員食堂
おすすめレシピ紹介



愛称 ○○○カレー

このチーズフライカレーは第4中隊が考案し、第41普通科連隊炊事競技会で優勝、さらには上級部隊である第4師団炊事競技会でも優勝となった名誉あるカレーなんです！当時第4中隊で炊事長を務めていたカマクラさんにちなんで駐屯地では「カマクラカレー」と呼ばれています。

優勝師団野外炊事競技会

分量 (4人前)

食品名	分量g (調理指示)
*サラダ油	大さじ1
●おろしにんにく	8g
●豚バラスライス	150g (3×3センチ)
●梨又は黄桃缶詰	40g (おろし)
●玉葱	200g (5ミリ)
●さつまいも	200g (1.5センチ サイコロ)
●人参	120g (1.5センチ サイコロ)
●カレールー	150g
●カレー粉	4g
●ガラムマサラ	4g
●濃口しょうゆ	10g
●ウスターソース	10g
●インスタントコーヒー	小さじ1
●サラダ油 (揚油)	適量
●生椎茸	150g/8個
●塩	2g
●小麦粉	適量
●鶏卵	1個
●パン粉	適量
●パルメザンチーズ	適量

- 生椎茸はパン粉に粉チーズの半量を混ぜて、パン粉付けして揚げ油で揚げて、粉チーズを振りかける。
- 豚バラ肉は3センチに切る。梨はおろし、黄桃缶詰の場合はみじん切りにしておく。
- 玉葱は5ミリスライス、さつまいもと人参は1.5センチサイコロに切る。
- 窯にサラダ油を温め、おろしにんにく、豚バラスライスを炒め、玉葱、さつまいも、人参を入れて炒めカレー粉、ガラムマサラを振りかける。
- 水一人当たり200ccを入れて煮る。
- 具がやわらかくなったら、煮汁でやわらかく溶いたカレールーを入れる。
- 濃口しょうゆ、ウスターソース、インスタントコーヒーを隠し味として適量入れる。
- カレー皿にごはんをよそい、椎茸のチーズフライを2個のせてカレーをかける。



別府駐屯地業務隊

十文字原演習場外柵整備

令和7年10月から11月にかけて、十文字原演習場中山地区の最北端に外柵の設置工事を実施しました。

本整備は、演習場に隣接する茶畑への害獣被害を防止し、長期安定使用に資することを目的として、令和5年度から毎年100mずつ、業務隊が自隊施工で実施しています。寒風吹きさらし中での作業でしたが、工事3年目となり、職員の練度も年々向上し、まるで業者が実施する工事と同程度の完成度となりました。



今年度で300mが完成しました。業務隊も、十文字演習場の整備の一翼を担っています！

第404会計隊

令和7年度持続走競技会優勝に向けて

令和7年度持続走競技会優勝に向け、令和7年10月6日(月)から同年11月14日(金)までの間、業務多忙な日々を追われながらも隊員一人一人が自主積極的に練成を実施しました。

昨年度は台風の影響で中止となりましたが、一昨年開催された競技会では優勝の成績を収めており連覇がかかっています。

限られた時間の中でも効率的に練成を行うため、早朝走や班ごとの走力別練成を計画的に実施しました。隊員同士が互いに声を掛け合い、苦しい場面でも粘り強く走りぬく姿は、まさに団結力そのものでした。

また、負傷防止を徹底するため、柔軟運動やフォーム確認など基礎的練成にも重点を置き、日々の業務に支障をきたさない範囲で無理のないトレーニングを継続しました。

競技会当日には、これまで積み重ねてきた努力を存分に発揮し、部隊の名譽と誇りを胸に、一人一人が力強い走りを見せていました。

結果は6位と不本意に終わりましたが、連覇に向けた隊員の士気は高く、全隊員が一体となり良い競技会になりました。

次年度の競技会では優勝旗を取り返します。



会計隊が一丸となって実施することで、きつい練成も笑顔で乗り越えて頑張れました。

第3普通科直接支援中隊

中隊練成訓練

中隊は、中隊練成訓練を実施しました。本訓練では、個々の基礎動作の徹底や部隊としての連携強化を目的に、各種訓練を行いました。隊員一人ひとりが高い意識をもって臨み、統制の取れた行動や団結力の向上につながる有意義な訓練となりました。

今回の訓練を通じて、課題を見出すことができ、事後の訓練に反映することができたと感じます。



身を守るための大きな穴をみながら一生懸命掘っている様子です。

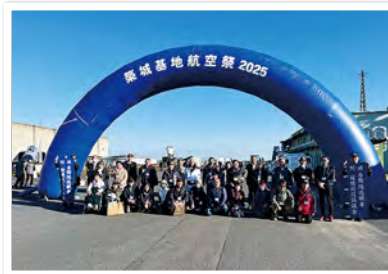
自衛隊大分地方協力本部 援護課 大分地域援護センター

航空自衛隊航空祭研修

大分地域援護センターは、11月29日(土)航空自衛隊築城基地にて、別府援護協議会の会員企業主等の航空祭(フレ)研修を支援しました。

当日は、会員家族を含め33名が参加し、記念撮影のち自由行動となりました。

F-2、ブルーインパルスによる飛行展示、地上展示での航空機・特殊車両等の見学、各種アトラクションを通じて、自衛隊を肌で感じていただきました。半日という、短い時間でしたが、自衛隊の理解と一層の援護協力環境の醸成を図ることができました。



航空機の飛行展示を目の当たりにして、陸上自衛隊とは異なる迫力と魅力を感じ、大満足の研修となりました。

第134地区警務隊 別府派遣隊

警務隊の活動状況

別府派遣隊は、令和7年12月3日(水)、西部方面警務隊が実施した第134地区警務隊訓練検閲に伴い、別府派遣隊として駐屯地において受閲し、建造物侵入被疑者の現行犯逮捕引渡し受け、十文字演習場における弾薬不符号事案対処について対応した。

また、9日(火)には、職種紹介として中津市所在の高校生5名に対し、職種説明及び指紋採取体験を実施し、今後の募集活動及び警務官の獲得に貢献した。



警察官がするような指紋採取を体験してもらい、陸上自衛隊の職域の幅の広さを感じてもらいました。

第304基地通信中隊 別府派遣隊

令和7年度方面総監直轄部隊訓練検閲受閲

第304基地通信中隊別府派遣隊は、令和7年11月22日(土)から11月26日(水)までの間、別府駐屯地において方面総監直轄部隊訓練検閲を受閲しました。

あらゆる状況を想定し駐屯地の通信を確保すべく、通信所防護、スターリンク(携帯衛星通信装置)によるバックアップ体制保持、サイバー攻撃対処、放送回線・各種システムを使用した情報収集を実施し迅速な対応・対処を確立することができ別府派遣隊のシステム通信能力及び技術向上を図ることができました。



状況4日目早朝、派遣隊長 島津2尉を核とした勇ましい姿。家族に向けた新聞作成に使用しました。

女性が輝く職場づくり

令和7年7月、防衛省は陸・海・空自衛隊における女性自衛官の配置制限を完全に撤廃しました。これにより女性自衛官があらゆる場面で活躍する姿が増えてきました。
別府駐屯地においても女性が活躍しています。活躍していく反面、仕事と私生活とのバランスも大きく変わってきています。また、悩みも増えてしまうのも当然です。そんな仕事と生活の調和、いわゆるワークライフバランスを実現するため、別府駐屯地ではさまざまな取り組みを行っています。



緊急登庁時における子どもの一時預かり

災害派遣などで緊急登庁した際には、駐屯地で5日程度子どもを預かることができる体制を整備しています。駐屯地内で子どもを預けることで、合間を見て子どもの様子を確認でき、安心して勤務に臨めます。



駐屯地でも定期的に緊急登庁訓練を実施しています。併せて子どもの一時預かりの受け入れ準備訓練も実施しています。訓練終了後は、意見等を交換し、逐次環境の整備を行っています。

女性自衛官会同

別府駐屯地所在の女性自衛官による会同を定期的に行っています。女性のための休暇の取得方法や、より働きやすい勤務環境や生活環境の改善策について話し合っています。



会同の内容は、仕事や育児など様々。世間話も交えて、終始朗らかな雰囲気で行っています。



新隊員に対する会同では、部隊配属前の悩みなどの解消を目的に、寄り添った話し合いとなりました。



別府市自衛隊協力会総会



音楽部による演奏は2曲の予定でしたが、アンコールが起こり、さらに1曲演奏しました。

総会終了後には、別府駐屯地隊員食堂において昼食会が行われ、食事と第41普通科連隊音楽部による3曲の演奏を楽しんでいただきました。
本総会を通じて、この別府駐屯地が地域の皆様への深いご理解と温かいご協力によって成り立っていることを、改めて実感する機会となりました。



第44回

大分国際車いすマラソン支援



第41普通科連隊は、11月16日(日)に、第44回大分国際車いすマラソンの支援を実施しました。大会に先立ち、別府駐屯地において調印式を実施し、大会運営支援について締結しました。また、大会前には会場や道路などの下見したほか、車いすの運搬場所や手順などを念入りに確認してまいりました。
大会当日、隊員たちは大会支援者と連携し、大型トラックで車いすの輸送や、高機動車に報道用カメラを設置し報道支援を行い、大会の円滑な運営をサポートしました。また、閉会式では第41普通科連隊長 井出智昭 1等陸佐が受賞者にメダルに授与するとともに握手を交わしました。閉会式後は競技用車いすを各選手の宿泊先への輸送を行い支援は終了となりました。



車いす輸送においては、細心の注意を払い積み下ろしを行い、保護のために車いすには毛布をかけて輸送しました。



プレゼンターを務めた井出智昭1等陸佐は、握手とともに功績をたたえる言葉を送りました。